



松林小だより

平成30年9月28日
学校便り No.7
羽村市立松林小学校

東京都羽村市羽4122-2 電話 042-554-7800

「褒める」と「励ます」

校長 瀬戸 隆幸

朝晩はめっきり涼しくなり、ようやく秋らしい風情が感じられるようになりました。学校でも、校庭で遊ぶ子供たちがうんと増え、長袖姿も見られます。これからしばらくは、「芸術の秋」「勉強の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」など、何をするにもよい季節です。

9月12日（水）から14日（金）にかけて、5年生と清里移動教室に行ってきました。清里移動教室のテーマは、「自主性・自立性・協調性・自然から学ぶ・友情を深める」です。集団生活の中で、三校合同のP・A（プロジェクト・アドベンチャー）や飯盛山ハイキングの中で、キャンドルファイヤーの中で、あらゆるところでテーマを意識して生活することができました。三日間の間にどんどん成長する子供たちを見ていて、本当にうれしくなりました。

10月5日（金）には前期が終了し、子供たちに通知票「あゆみ」を渡します。一人一人が自分のめあてをもって学習や運動、生活に取り組んできました。そのことを各担任が評価しています。ぜひ、子供たちの頑張りを褒めてください。そこで、お願いします。

ある日、プールで初めて泳ぐことができた子供が飛ぶように帰ってきたとします。その子供の喜びの声を聞いたとき、ご家庭では、どのように声をかけられるのでしょうか。

「わあ、すごい。よくやったねえ。」

多くの方は、おそらくこのように褒めるのではないかと思います。しかし、もしかしたら、そのあとに次のような言葉も続けてしまうのではないのでしょうか。

「じゃあ、今度は25mをめざしてがんばろうね！」

よく見られる光景でしょう。

国語のテストで良い点を取って、喜んで帰ってきた子供に「すごい、やればできるじゃない。」「じゃあ、次は算数でも良い点をとろうね。」などと言う。

算数の成績が上がり、帰宅するや否や通知票を見せにきた子供を褒めたあとに「じゃあ、後期は国語もがんばろうね。」などと言ったりするのも同様です。

このとき、子供は、最初に感じた「褒められた」という気持ちが一気に半減し、がんばれと「励まされた」という気持ちに変容してしまうのです。

ですから、こういった声かけは、上手に演出しなくてはなりません。「褒める」ときは、そのあとについて続けてしまいがちな「励ましの言葉」をぐっと我慢して、思いっきり褒めてあげることが大切だと考えます。

もちろん、むやみに褒めればいいというわけではなく、「褒める内容とタイミング」が重要です。子供が何らかの努力をしたとき、あるいは子供に何らかの進歩や成長が見られたとき、そして、人間としてすばらしい行為をしたとき。こんなときは、余計な「励まし」の一言は付けずに、思いっきり「褒めて」あげたいものです。そうすれば、きっと子供たちは向上心をもって次の目標を自分で決めて努力してくれると思います。